

<エントリーシート>	校内研修 部門	桑折町立醸芳小学校
No.: C-24	「深い学び」に向けて ～体制づくりと授業改善～	
<p>課題の設定：</p> <p>本校は、平成29年度より福島県教育委員会の「『学びのスタンダード』推進事業」におけるパイロット校の指定を受け、授業改善の先駆者としての役割を担っている。新学習指導要領への移行の時期でもあり、改訂の趣旨でもある「主体的・対話的で、深い学び」の実現に向け、子どもの深い学びへ向けた体制づくりと授業改善に取り組むことで、生きて働く思考力・判断力・表現力を育てたいと考えている。</p>		
<p>方針・計画：</p> <p>子どもの「主体的・対話的で、深い学び」の実現に向け、以下の視点で取り組んできた。</p> <p>①「学校の組織的な対応」（協働性を生かした教員研修）</p> <p>②「授業における教師の子どもの見取りとコーディネート」（学びの連続性の保障）</p>		
<p>活動内容：</p> <p>① 「教科担任制」による専門性の高い授業へ向けた体制づくり</p> <p>② 福島県版「授業スタンダード」を取り入れた授業改善</p> <p>③ 討論形式による授業研究会</p>		
<p>活動の成果：</p> <p>① 児童の変容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学力調査の算数科において、活用力を問う問題で伸び幅が大きい。</li> <li>課題に主体的に向き合い、意見交換（交流）を通して考えを考えた姿が見られるようになった。</li> </ul> <p>② 教師の変容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学びの履歴をもとにしたコーディネートを行うようになった。</li> <li>「授業スタンダード」視点に基づき、具体的な子どもの姿をもとに授業研究をする姿が見られ、教師集団としての力が向上しはじめている。</li> </ul>		
<p>アピールポイント（アイデアや工夫）：</p> <p>○ 算数科の教科担任制においては、算数科の授業だけではなく家庭学習についても、教科担任が関わることで、授業と家庭学習の学びの連続性を図る。</p> <p>○ 福島県版「授業スタンダード」をもとに、単元で育てる汎用的能力を明らかにし、全ての教科においてどの教員も同じ視点で指導することで、教師の力量アップとともに指導のブレがなくなってきた。</p> <p>○ 討論形式による授業研究会を取り入れたことにより、経験年数や専門教科の違う教員が、それぞれの立場（様々な視点）から意見を出し合うことで、話し合いが深まることにも、教師集団としての力が向上した。</p>		

<教科担任制>

<教師の働きかけ（県版『授業スタンダード』より）>

	5年1組	5年2組
算数 T1	算数専門の教師	
算数 T2	担任	担任

	5年1組	5年2組
理科	理科専門の教師1	

共有させるための教師の働きかけの例

【予想】「〇さんの式の意味を説明できますか」  
「〇さんの考えの続きが言えますか」

【再生】「〇さんの説明をもう一度言えますか」

【換言】「〇さんの考えを別の言い方でも言えますか」

【要約】「〇さんの考えを簡単に言えますか」

【共感】「〇さんの気持ちが分かりますか」

【発見】「〇さんの考えのよいところはどこですか」

【補助】「〇さんの考えのヒントが言えますか」

考えを深めるための問い返しの例

【事実】「どういことですか」

【方法】「どのように考えたのですか」

【理由】「どうしてそうなるのですか」 など



	6年1組	6年2組
音楽	音楽専門の教師 (2組担任)	

	6年1組	6年2組
理科	理科専門の教師2	

	4年1組	4年2組
図工	図工専門の教師	

	3年1組	3年2組
書写	書写専門の教師	

<単元で育てる資質・能力（算数科）>

<教師のコーディネートによる授業での学び合い>

4 単元の構想（総時数7時間）

時	主な学習内容 ○「数学的な見方・考え方」 △「評価規準」	問題発見・解決過程との関連					
		① 見いだす力	② 実践する力	③ 活用する力	④ 考える力	⑤ 解釈する力	⑥ 表現する力
1本時	◎面積、匹数が異なる場合の混み具合の比べ方を考える。 ○異なる二つの量の割合としてとらえられる数量の関係に着目し、比べ方を考える。 △異なる二つの量の割合としてとらえられる数量の比べ方について考え、理解している。【知識・理解】		○	○	○		
2	◎面積や匹数の単位量当たりの大きさを用いて比べる。 ○異なる二つの量の割合としてとらえられる数量の関係（比例関係）に着目し、単位量当たりの考えを活用する。 △単位量当たりの大きさを用いて比べることの意味を理解している。【知識・理解】			○	○		○
3	◎「人口密度」の意味を知り、人口密度を求める。 ○異なる二つの量の割合としてとらえられる数量の関係に着目し、目的に応じた処理の仕方を工夫する。 △「人口密度」の意味を理解し、人口密度を求めることができる。【知識・理解】【技能】				○		○
4	◎米のとれ具合を単位量当たりの大きさを用いて調べる。 ○異なる二つの量の割合としてとらえられる数量の関係に着目し、目的に応じた処理の仕方を工夫する。 △単位量当たりの大きさを用いて2つの資料を比べることができる。【技能】				○		○
5	◎「力をつけるもんだい」に取り組む。 ○異なる二つの量の割合としてとらえられる数量の関係に着目し、目的に応じた処理の仕方を工夫する。 △学習内容を適用して、問題を解決することができる。【技能】				○		○
6	◎身の回りから単位量当たりの考えを使っている場面を探す。 ○異なる二つの量の割合としてとらえられる数量の関係に着目し、単位量当たりの考えのよさを感じる。 △学習内容を適切に活用して、活動に取り組もうとしている。【関心・意欲・態度】		○				○
7	◎「しあげ」に取り組む。 ○異なる二つの量の割合としてとらえられる数量の関係に着目し、目的に応じた処理の仕方を工夫する。 △基本的な学習内容を身につけている。【知識・理解】				○		○

①数学的な問題を見いだす力⇒物事を数・量・図形などに着目して観察し、単純化して算数の問題とする。  
②問題解決のための構想・見通しを立て実践する力⇒解決の方針を立てる。試行錯誤・類推的・構造的・演繹的思考  
③情報を活用する力⇒情報を分類整理したり、必要なものを適切に選択し判断したりする。  
④振り返って考える力⇒統合的・発展的に考える。よりよい考えや結果に改善する。一般的・多面的に考える。  
⑤事象を数学的に解釈する力⇒数学的な結果を基の事象に即して考える。  
⑥数学的に表現する力⇒数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表したり、目的に応じて柔軟に表したりする。




<討論形式の授業研究会の様子>

<児童の変容

『全国学力・学習状況調査』より）>

	平均正答率（全国と本校との差）の変容 （平成29年度と平成30年度の結果より）
国語A	+7.1
国語B	+3.8
算数A	+5.1
算数B	+7.6